

## ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元： NPO 法人テレメータリング推進協議会

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	Ⅱ 通信方式選定の考え方 (P14～P18)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>(1)はじめに</p> <p>NPO 法人テレメータリング推進協議会は、平成6年4月に発足した母体組織より継承される LP ガス IT 化推進協議会から平成 22 年 1 月に改称し、LP ガス、都市ガス、電力、水道の各ライフライン業界が一丸となってテレメータリングを社会インフラとして普及させるための事業活動に長年取り組んで参りました。これらの結果、現在、LP ガス業界と都市ガス業界では、合計で約800万世帯に自動検針・集中監視システムが導入されております。</p> <p>スマートメーター用インフラは長期に渡って運用されますが、最適な通信インフラは時代とともに移り変わるものであり、その時代に合った最適な通信インフラを柔軟に選択できる必要があります。テレメータリング推進協議会では、安全性や信頼性と経済性を両立し、時代に適合可能なテレメータリングシステムの検討を進めております。</p> <p>東京電力様が、構築されるスマートメーター用通信インフラは、社会インフラとしての長期に渡って運用が必要なものですので、これまでの当協議会での経験を元に2点、意見を申し上げます。</p> <p>(2)通信インフラ選択肢の多様化について</p> <p>スマートメーター用通信インフラは、前述の通り、長期に渡って運用されるため、公衆通信インフラを含め複数の通信インフラを選択できる構成が望ましいと考えます。Ⅱ-1 に挙げた全ての通信方式において、東京電力自身が敷設するインフラの利用を前提とせず、既に公共で使用されている通信事業者のインフラの併用も視野に入れた検討を実施すべきであると考えます。</p> <p>(3)通信仕様のオープン化について</p> <p>スマートメーター用通信インフラは、社会インフラとして他ユーティリティが共用できるこ</p>	<p>通信ネットワークの構築については、求められる機能・要件を十分に吟味した上で、通信事業者の既存インフラやサービスの利用も含め、極力低コストで実現することを目指します。</p> <p>具体的には、今後、通信事業者に対して具体的な条件を提示した上での RFP を行い、要件を満足する提案を比較検討し、トータルコストが最小となるよう、適材適所で適用する通信方式を選定します。</p> <p>また、コストミニマム化の観点から、ガスや水道等の他ユーティリティ事業者などとの通信インフラ共用について、各事業者と連携の上、検討してまいります。</p>

		<p>とにより他ユーティリティにとっても通信インフラの選択肢と成り得ます。</p> <p>東京電力様が適用する通信インフラについても、Ⅱ-1に挙げた全ての方式に関して仕様をオープン化し、他ユーティリティの共用の可能性を追求するべきであると考えます。</p>	
2	Ⅲ. 無線マルチホップネットワークのシステム概要(P29)	<p>&lt;意見内容&gt;</p> <p>(1)はじめに</p> <p>一昨年度、総務省様の支援を受け、当協議会では、LPガス業界、都市ガス業界、水道業界関係者が参画し、新たなテレメータリングシステムの仕様標準化作業を、平成23年3月末に完了しました。本作業で標準化した新たな近距離マルチホップ無線システム(Uバスエア)は、電池で長期間駆動する革新的な無線システムとして、IEEE802.15.4e/gでの世界標準にも採用され、調達コストの低減や普及促進の面で大きな成果を得ております。当協議会での経験を元に3点、意見を申し上げます。</p> <p>(2)周波数チャンネルの選定について</p> <p>東京電力様の無線マルチホップネットワークシステムの利用周波数が920MHz帯であることは、グローバルには、IEEE規格がSmart Utility Network(SUN)用の無線規格として標準化されたこと(2012年3月)、国内では、ARIB STD-T108にて、テレメータ用として規格化されたこと(2012年2月)から将来のスマートメータ用の無線インフラとして適切な選択であると考えます。</p> <p>当協議会において仕様標準化したUバスエアも920MHz帯の周波数を利用します。920MHz帯の周波数資源は、貴重な資源ですので、その効果的かつ効率的な運用を図るために、利用周波数チャンネルや利用方法に関しまして、当協議会と共同で情報交換を実施させていただきたいと考えております。</p> <p>(3)仕様の共通化の検討について</p> <p>Uバスエアは、920MHz帯の周波数を利用し、IEEE802.15.4g、IEEE802.15.4eに準拠しており、東京電力様が検討しているマルチホップ無線ネットワークシステムの通信ユニットと相当程度、仕様共通化を図れる可能性があります。社会インフラとして同一の規格を採用することにより更なる端末コスト、調達リスクの低減が期待できます。</p> <p>通信ユニットの無線IC、マイコン、水晶発信子、アンテナ等の共通化を図ることにより、</p>	<p>いただいたご意見は今後の検討の参考とさせていただきます。</p> <p>通信方式の選定評価の結果、920MHz帯を利用することになった場合には、利用周波数チャンネルやその利用方法、仕様の共通化等について、貴協議会や関係業界と意見交換させていただきたいと思います。</p>

部品コストの低減、調達安定性の向上は勿論のこと、製造設備の共通化も期待できますので、東京電力様で利用される通信ユニットの仕様とUバスエアの仕様共通化の可能性について当協議会と共同で検討を実施させていただきたいと考えております。

(4)相互接続性の確保について

東京電力様の通信ユニットでは、異なるメーカー間の相互接続性の確保を規定しております。通信ユニットの普及にあたっては、相互接続性の確保は重要な技術ファクターであると認識しており、東京電力様の規定は適切なものと考えます。

当協議会においても、総務省様の支援を受け、仕様標準化作業と並行して、異なるメーカー間の相互接続性を検証する、相互接続試験装置(テストベッド)と運用シミュレータを製作し相互接続環境運営の準備を進めております。

社会インフラであるスマートメーターシステムの相互接続試験装置は、電力業界、ガス業界、水道業界等のライフライン業界で共有することが望ましいと考えます。当協議会においても、先に培った相互接続試験装置の構築経験、運用経験を提供できると考えておりますので、相互接続性確保の方法について議論を実施させていただきたいと考えております。

以上

尚、本意見具申の参考資料として下記「添付資料」を作成しましたので、ご活用下さい。

【添付資料】

1. NPO法人 テレメータリング推進協議会の概要(4P)…1セット
2. U-BUS Airの概要(15P; 扱い注意)…1セット
3. 相互接続性試験装置(テストベッド)の概要(13P)…1セット